

『今日は、8月16日に行われた精霊流し
の話をしよと思うておるんじゃ。』
『10年ほど前まで忍草では、8月16日
は葦の船を作って、新名生川で精霊
流しをしていたでまっすん。どうして、
精霊流しをしなくなったでまっすん。』
『葦を流した後のことが問題だったん
じゃよ。昔は、ご先祖様を送る行事な
のだから流した葦やお供え物はゴミ
という認識ではなかったんじゃ
よ。言い方を変えると施餓鬼じゃな。

ところが、新名生川は一級河川じゃ。川を汚す
行為はやめてほしいという意見があつてな、話
し合いの結果、精霊流しは無くなったんじゃ。』
『今回は、どうして精霊流しをすることになった

でまっすん。ゴミ問題は難しいでまっすん。許可も必要でまっすん。』

『その通りじゃ。精霊流しをやめるとこになった時、反対した人がいたんじゃよ。伝統的な行事が
無くなってしまふことを憂いてな。今年、そのような方々の声が大きくなり、精霊流しを復活さ
せようという気運が高まったんじゃ。東円寺の役員さん方も、精霊流しという伝統行事を復活
させることに協力してくれたんじゃよ。話し合いを重ねて、山梨県の関係部署にお願いに行った
んじゃ。やはり、流した後の処理について厳しく指導されたぞ。』

『日本中に、葦で作った船にお供物を乗せて、ご先祖様の魂を流すという風習のある地域は、
あるでまっすん？ 灯籠流しも情緒があるけど、葦の船が流れる姿は、ご先祖様がその船に乗っ
て、旅立って行かれることを想像させるでまっすん。風情があるでまっすん。』

『そうじゃな。忍草では昔から、盆の入りには「ご先祖様を早く迎えに行つてやれ」と言い。盆明
けは、「お昼ご飯を食べて、ゆっくり送つてやれ」と言うんじゃよ。今でもその風習は残ってい
て、16日には、親戚が集まって昼食を済ませた後、親戚中でお墓参りに来るんじゃよ。16日に東
円寺にお墓参りに来ると、驚くほど人がいるぞ。さて、話が少しそれてしまつたが、今年の精霊
流しは、観光客の邪魔をしてしまつたが、川沿いに祭壇を作って3人の和尚さんが読経したん
じゃよ。新盆の方々を対象にした精霊流しだったんじゃが、葦の船に紙のお位牌を乗せて流したん
じゃよ。御詠歌の方にもご協力いただき花を添えてもらったぞ。』

『富士山に向かって流れる葦の船…あの世に帰つてしまふと思うと寂しさがこみ上げてくるけ
れど、和尚さんたちの読経にのせて、良いところに帰れるような気がするでまっすん。』

『来年はどのようになるのかははっきり決まていないが、とても厳かで風情があつたぞ。さて、
次回は、写経について紹介しようと思つておるぞ。』

クニマツン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

□癖 でまっすん…



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)